

2026年第1回東京競馬特別レース名解説

<第1日>

○白嶺ステークス

白嶺（はくれい）は、山の頂が雪に覆われて白くなっている様。

○クロッカスステークス（L）

クロッカス（Crocus）は、地中海沿岸および小アジア原産のアヤメ科の球根植物。花言葉は「青春の喜び」「切望」。

○白富士ステークス（L）

白富士（しらふじ）は、積雪により山頂付近が白くなった富士山のこと。晴天の日には、東京競馬場からも見事な白富士を望むことができる。

<第2日>

○セントポーリア賞

セントポーリア（Saintpaulia）は、アフリカ原産のイワタバコ科の多年草。名は、発見者であるセントポールにちなんで名付けられた。花は左右対称の合弁花で、紫色または薄紫色を呈する。花言葉は「深窓の美女」「小さな愛」。

○節分ステークス

節分（せつぶん）は、季節の変わり目、立春・立夏・立秋・立冬の前日のこと。特に立春の前日を指す場合が多く、この日の夕刻に鬼打ちの豆まきをして邪氣を払う習慣がある。

○フォーエバーヤング ブリーダーズカップクラシック優勝記念

根岸ステークス（GⅢ）

本競走は、フォーエバーヤング号のブリーダーズカップクラシック競走優勝を記念して実施される。

本競走は、1987年に創設された重賞競走。当初は、ダート1400mで行われていたが、1990年から1200mに短縮された。2001年には再び1400mとなり、実施時期も11月から現在の時期に変更となった。なお、第1着馬には同年の『フェブラリーステークス』への優先出走権が与えられる。

根岸（ねぎし）は、横浜市中区の地名。江戸時代末期に日本初の近代競馬場である根岸競馬場が設置され、1942年まで競馬が実施されていた。現在、跡地は根岸競馬記念公園として整備されており、「馬の博物館」などがある。

<第3日>

○春菜賞

春菜（はるな）は、春に摘んで食用とする野草。春の七草を総称して春菜と呼ぶこともある。

○テレビ山梨杯

テレビ山梨は、山梨県甲府市に本社を置く放送局。1970年開局で、JNN（TBS）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○早春ステークス

早春（そうしゅん）は、春の初めの意。2月から3月初めの頃を指す。

<第4日>

○ゆりかもめ賞

ゆりかもめ（百合鷗）は、ユーラシア大陸に広く生息するカモメ科の鳥。日本では、冬鳥として全国の海岸や河川で見られる。東京都の鳥に指定されており、東京臨海新交通臨海線の愛称にもなっている。

○アラブ首長国連邦大統領国賓訪日記念ザイード&ラシッド杯

本競走は、アラブ首長国連邦（UAE）のムハンマド・ビン・ザイード・アール・ナヒヤーン大統領が国賓として来日されることを記念して実施される。

UAEは、アラビア半島の東部に位置し、アブダビやドバイなど7つの首長国からなる連邦国家。首都はアブダビ。豊富なエネルギー資源を背景に発展を遂げ、近代的な都市景観と伝統的な砂漠文化が融合している。

世界有数の競馬の祭典「ドバイワールドカップデー」は、例年3月下旬から4月上旬に行われ、世界各国から有力馬が参戦する一大イベントとして知られる。メインイベントである『ドバイワールドカップ』では、2011年にはヴィクトワールピサ号が、2023年にはウシュバテソーロ号がいずれも優勝するなど、日本馬がその実力を世界に示している。

ザイード&ラシッド杯は、アラブ首長国連邦（UAE）の建国を導いた二人の指導者にちなんだ名称。UAE初代大統領であり当時アブダビ首長であったシェイク・ザイード・ビン・スルターン・アール・ナヒヤーンと、当時ドバイ首長として都市と経済の発展を牽引したシェイク・ラシッド・ビン・サイード・アル・マクトームに由来する。

○東京新聞杯（GⅢ）

本競走は、1951年に創設された重賞競走。当初は『東京杯』の名で『天皇賞（春）』の前後に行われていた長距離の競走であったが、1966年に現在の名称・実施時期に変更された。その後、徐々に距離が短縮され、1984年に現在と同じ芝1600mとなった。一時期はハンデキヤップ戦として実施されていたが、1981年以降は別定重量戦で実施されている。

東京新聞は、中日新聞社東京本社が発行する日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第5日>

○箱根特別

箱根（はこね）は、神奈川県南西部の町。箱根町と静岡県函南町の境に位置する箱根峠は、かつて東海道の難所として知られていた。芦ノ湖、仙石原などの見所も多く、日本屈指の観光地となっている。また、古くから温泉街として知られ、早川沿いには湯本、塔ノ沢などの温泉がある。

○銀蹄ステークス

銀蹄（ぎんてい）は、銀の蹄鉄のこと。蹄鉄は、馬の蹄（ひづめ）に打ちつけ、蹄の摩滅や損傷を防ぐ装具。

○デイリー杯クイーンカップ（GⅢ）

本競走は、1966年に創設された3歳牝馬限定の重賞競走。創設時は芝1800mで実施されていたが、1971年からは1600mで実施されている。

デイリースポーツは、神戸市に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○雲雀ステークス

雲雀（ひばり）は、スズメ目ヒバリ科に属する鳥。茶褐色をしており、頭の上に冠羽（かんう）と呼ばれるとさかのような羽を持つのが特徴。春を告げる身近な野鳥として親しまれている。また、府中市の鳥に指定されている。

○バレンタインステークス

バレンタイン（Valentine）は、3世紀にローマで殉教したテルニーの主教聖ヴァレンティヌスの記念日。2月14日がその日にあたる。西洋では恋人や友達、家族が互いにお菓子やカード、花束などを交換する習慣がある。

○共同通信杯（GⅢ）（トキノミノル記念）

本競走は、1967年に創設された『東京4歳ステークス』を前身とする重賞競走。1983年に『共同通信杯4歳ステークス』へ改称し、2001年の馬齢表記の変更に伴い、現在の名称となった。なお、1969年からは、副題として「トキノミノル記念」が付されている。

トキノミノル号は、1951年の『皐月賞』、『東京優駿（日本ダービー）』の優勝馬で、戦績は10戦全勝。その戦績を称え、1984年に顕彰馬に選出された。

共同通信社は、東京都港区に本社を置く通信社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第7日>

○フリージア賞

フリージア (Freesia) は、南アフリカ原産のアヤメ科の秋植え球根植物。2月から6月頃、花茎の上部の片側にユリ形の6裂の花を咲かせる。つぼみは下から順次咲き、芳香を放つ。色は黄・白・桃・紅・紫など多彩で、大輪種もある。花言葉は「純潔」「親愛の情」。

○金蹄ステークス

金蹄 (きんてい) は、金の蹄鉄のこと。縁起物として用いられる。蹄鉄は、馬の蹄 (ひづめ) に打ちつけ、蹄の摩滅や損傷を防ぐ装具。

○ダイヤモンドステークス (G III)

本競走は、1951年に創設された重賞競走。創設当初は中山競馬場の芝2600mで実施されていたが、1965年に距離が3200mとなり、1987年からは東京競馬場で実施されている。2004年に3400mに延伸され、JRAの平地重賞では『ステイヤーズステークス』（芝3600m）に次ぐ長距離の競走となった。

ダイヤモンド (Diamond) は、炭素原子のみで構成される鉱物。宝石や研磨剤として使用されている。

<第8日>

○ヒヤシンスステークス (L)

ヒヤシンス (Hyacinth) は、中近東原産のユリ科の球根性多年草。鉢植えなどのほかに水栽培でも生育することができる。花言葉は「勝負」「遊戯」。

なお、本競走は、日本馬を対象とした『ケンタッキーダービー』出走馬選定ポイントシリーズ「JAPAN ROAD TO THE KENTUCKY DERBY」の対象レースとなっている。

○ジャパンカップ 2025年ロンジンワールドベストレース受賞記念

本競走は、IFHA (国際競馬統括機関連盟) が発表した「2025年世界のトップ100G I 競走」において、『ジャパンカップ』が日本の競走として2023年以来2度目の第1位となる「2025年ロンジンワールドベストレース」を『チャンピオンステークス (英)』と共に受賞したことを記念して実施される。

「世界のトップ100G I 競走」は、年間レースレーティングの上位100競走をランキングしたもので、年間レースレーティングは、当該競走における上位4着までの馬の公式レーティングの平均値をいう。

○フェブラリーステークス (G I)

本競走は、1984年に創設された『フェブラリーハンデキャップ』を前身とする重賞競走。創設時よりダート1600mで実施されている。その後、1994年にG IIへ格上げされ、競走名が『フェブラリーステークス』へ改称、負担重量も別定重量に変更された。さらに1997年には、JRA初のダートG I 競走となり、負担重量も定量に変更された。

フェブラリー (February) は、2月を意味する英語。

○大島特別

大島（おおしま）は、東京都に属する伊豆諸島最大の島。伊豆大島とも呼ばれる。伊豆・小笠原弧の火山島で、南西部には三原山がある。